

第1号様式

(第1面)

事業活動地球温暖化対策計画書

(あて先) 川崎市長

郵便番号 144-0041
 住 所 東京都大田区羽田空港3-2-8
 氏 名 株式会社ANAケータリングサービス
 代表取締役社長 川崎 三喜男

(法人にあつては、名称及び代表者の氏名)

川崎市地球温暖化対策の推進に関する条例第9条第1項（同条第4項において読み替えて準用する場合を含む。）の規定により、次のとおり提出します。

事業者の氏名 又は名称	株式会社ANAケータリングサービス		
主たる事務所又は 事業所の所在地	川崎市 川崎区殿町3-26-1 ANA川崎ケータリング棟		
該当する事業者 の要件	<input checked="" type="checkbox"/> 規則第4条第1号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 規則第4条第2号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 規則第4条第3号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 規則第4条第4号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 上記以外の事業者（任意提出事業者）		
主たる事業 の業種	大分類	E	製造業
	中分類	09	食料品製造業
主たる事業 の内容	機内食製造、航空機への搭降載、機内用品の洗浄・管理業務		
事業者の規模	<input checked="" type="checkbox"/> 原油換算エネルギー使用量	1,899	k l
	<input type="checkbox"/> 自動車の台数		台
	<input type="checkbox"/> エネルギー起源の二酸化炭素 以外の温室効果ガスの排出の量		t -CO ₂
連絡先	担当部署	担当部署名	
		所在地	
	電話番号		
	FAX番号		
	メールアドレス		

※受付欄		※特記事項	※事業者番号	

(第2面)

計 画 期 間	2021 年度 ~ 2023 年度
温室効果ガスの排出の量の削減を図るための基本方針	別添 指針様式第1号のとおり
温室効果ガスの排出の量の削減に向けた組織体制	別添 指針様式第1号のとおり
温室効果ガスの排出の量の削減目標及び温室効果ガスの排出の量	別添 指針様式第1号のとおり
温室効果ガスの排出の量の削減目標を達成するための措置の内容に係る事項	別添 指針様式第1号のとおり
他の者の温室効果ガスの排出の抑制等に寄与する措置に係る事項	別添 指針様式第1号のとおり
その他地球温暖化対策の推進への貢献に係る事項	別添 指針様式第1号のとおり
備 考	当社の環境負荷低減の取組については、下記URLに掲載 http://www.anac.co.jp/ems/ems.html

- 備考 1 欄内にすべてを記載できない場合は、別紙により提出してください。
- 2 □のある欄は、該当する□内にレ印を記載してください。
- 3 計画書には、事業活動地球温暖化対策指針に定める資料を添付してください。
- 4 ※印の欄は記入しないでください。
- 5 氏名（法人にあっては、その代表者）を記載し、押印することに代えて、本人（法人にあっては、その代表者）が署名することができます。

事業活動地球温暖化対策計画

1 温室効果ガスの排出の量の削減を図るための基本方針

(1) 温室効果ガス排出量削減に向けた方針

<環境方針>

1. 食品安全管理を徹底し、食品危害の発生を無くすことにより、資源やエネルギーの浪費を回避します。
2. 日常の業務活動における「ムラ・ムリ・ムダ」を追求する事により、品質及び生産性の向上を図り、会社を取り巻く経営活動におけるすべての環境負荷低減に努めます。
3. 全ての業務工程に係る省エネルギー・省資源及び化学物質・洗浄剤などの管理の徹底により、環境負荷の極小化を通じ、クリーンファクトリーを実現します。
4. 環境関連の法律・条例及び規制・協定を守り、必要に応じ自主基準を定めて一層の環境保全に努めます。
5. 環境の大切さを全従業員が自覚し、環境保全に対する意識の向上を図り、且つあらゆる環境の変化に柔軟、迅速に対応し、リスクの回避に努めます。

この環境方針の実現に向けて、当社は、環境目的及び目標を設定し、それらを定期的に見直すマネジメントシステムを構築し、継続的改善を推進し業務改善に繋げます。
 なお、この環境方針は、委託業者を含む全従業員に周知徹底するとともに、一般に開示します。

<ISO認証取得>

- ・2007年8月、ISO 14001；2004環境マネジメントシステム認証を取得。2021年現在も認証更新を継続しており、環境方針実現のための推進体制を構築。

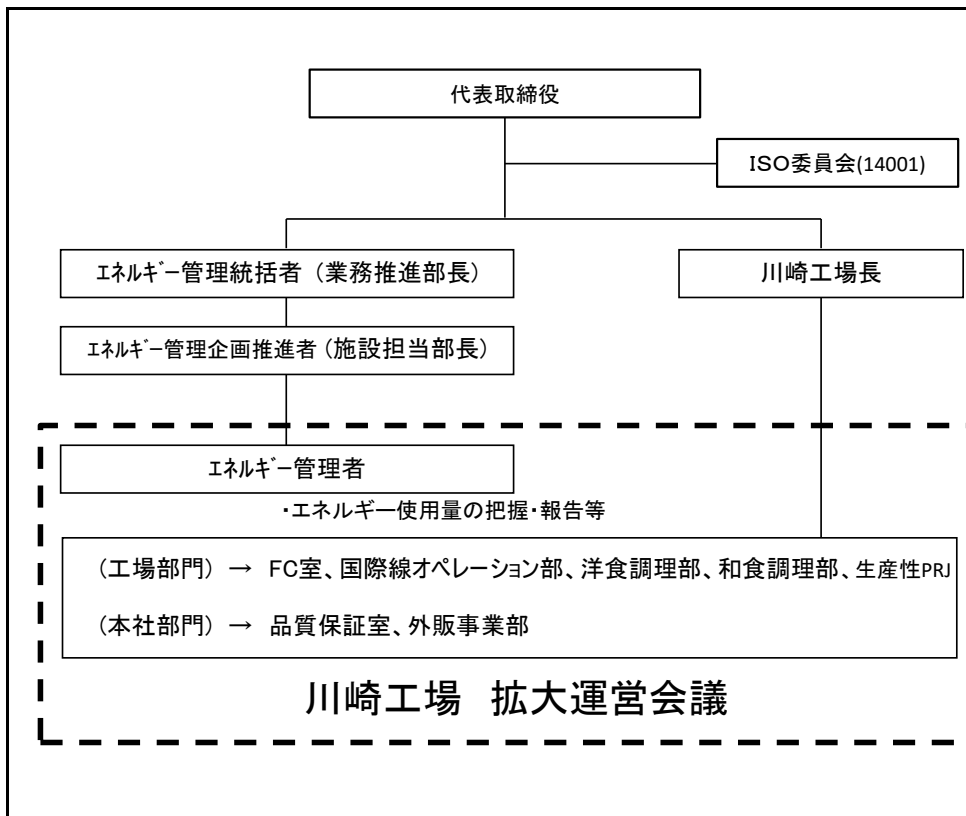
(2) 削減対策実施状況の適切な進行管理（PDCAサイクル）を行うための方針

①現在構築されている環境マネジメントシステム(ISO14001)の中で設定している目標値に従い、エネルギー管理を行う。

②主要設備について作成している管理標準を必要に応じ見直すとともに、これに基づく運転・保守管理を徹底する。

③設備毎のエネルギー使用量を月次で取り纏め、社内で情報を共有して分析し、節約に繋げる。

2 温室効果ガスの排出の量の削減に向けた組織体制



3 温室効果ガスの排出の量の削減目標等

(1) 温室効果ガスの排出の量の削減目標及び温室効果ガスの排出の量等

ア 基準排出量と目標排出量（（実）は実排出量を、（調）は調整後排出量を示す。以下同じ。）

		1、2、4号該当者等	3号該当者等
基準	年度	2020 年度	
目標	年度	2023 年度	
基準	排出量	(実) 3,459 (調) 3,391 t-CO ₂	(実) (調) t-CO ₂
目標	排出量	(実) 5,564 (調) t-CO ₂	(実) (調) t-CO ₂
削減量		(実) -2,105 t-CO ₂	(実) t-CO ₂
内訳	対策実施による削減量	(実) t-CO ₂	(実) t-CO ₂
	上記以外の削減量	(実) -2,105 t-CO ₂	(実) t-CO ₂
削減率		(実) -60.9 %	(実) %

イ 基準排出量原単位等と目標排出量原単位等（任意記載）

		1、2、4号該当者等	3号該当者等
原単位等の活動量		生産量	
原単位の単位		t-CO ₂ /千食	
基準年度の値		4.581	
目標年度の値		1.025	
削減率		77.6 %	

ウ 目標設定に関する説明

昨年よりのコロナ感染症拡大に伴い、羽田空港に於ける航空需要の大幅減の影響を受けて、生産量に繋がる国際線発着便数については、諸情勢により計画については都度柔軟に対応していかなければならない状況であり、現在を底の状態として捉えて生産量、及びエネルギー消費量は段階的に計画に合わせて下期以降については増えていく見込みとしている。

一方、川崎工場が2011年度に稼働を開始した比較的新鋭の設備である事、及び当初より種々の省エネ対策が施された建物設備である事から、今回の計画期間内に於いて設備更新等に基づく大幅な省エネ対策を見込まない事とした。また現状では、設備面から見た生産力には余裕があり、当面の間、生産量が増加しても設備増強を見込んでいない。よって今後の生産量増加の局面に於いて、原単位の改善が見込まれる事を考慮し目標設定を行った。

(2) 温室効果ガスの排出の量の削減目標（全社目標）（任意記載）

温室効果ガス排出量は基準年度比で増加傾向となると予測し、生産量の増加とエネルギー使用量の増加はこれまでの実績を基に、原単位換算での年度伸び率は基準年度比で22%程度と予測している。

4 温室効果ガスの排出の量の削減目標を達成するための措置の内容に係る事項

(1) 措置の内容

ア 計画期間に実施する措置の内容 (別表第1から6等を参考に記載してください。)

計 画	①現在構築されている環境マネジメントシステム(ISO14001)の中で設定している目標値に従い、エネルギー管理を行う。 ②主要設備について作成している管理標準を必要に応じ見直すとともに、これに基づく運転・保守管理を徹底する。 ③設備毎のエネルギー使用量を月次で取り纏め、社内で情報を共有して分析し、節約に繋げる。 ④LED照明導入の検討。
第1年度	/
第2年度	/
第3年度	/
計画期間における取組の評価 (第3年度の報告時に記載)	/

イ 実施済みの主な温室効果ガスの排出の量の削減対策内容

省エネルギー設備・器具の導入については、基準年度以前から積極的な取り組みを行っている。具体的には、これまで次のような取り組みを実施している。 ①大型倉庫内の照明をメタルハイドランプからLED照明への変更。 (平成28年度に事務所を除き100%導入) ②スチームコンベクションオーブンを大1から小2へ変更かつ、最新式の物へ更新。 (平成27年度) ③冷凍冷却器6台を最新式の物へ更新。(平成28年度4台、平成29年度2台) ④冷蔵冷却ユニット6台を最新式へ更新。(令和2年度) ⑤生産量に合わせた空調運転時間の見直し、管球の間引き、生産機器運転方法の見直し、食品保管冷蔵庫の集約(令和2年度)
--

(2) 再生可能エネルギー源等の利用等

ア 基準年度までに実施した再生可能エネルギー源等の利用に係る検討状況

(検討済みの場合は「○」、未検討の場合は「×」を記載し、検討済みの場合は検討結果を記載してください。)

再生可能エネルギー源等の種類	検討の有無	検討結果
太陽光	○	太陽光発電設置導入を検討した経緯があるが、荷重の問題にて実施が困難な状況であると確認し、導入を見送っている。
風力	×	
バイオマス	×	
未利用エネルギー	×	
その他 ()		
その他 ()		

イ 再生可能エネルギー源等を利用した設備の導入状況・計画及び再生可能エネルギー源等の価値の保有状況・計画

種類	概要(規模、場所など)	導入(保有)年度

(3) 基準年度までに実施したエネルギーの効率的な利用を図るための設備等の導入・検討状況

(導入済みの場合は「○」、導入検討中の場合は「△」、導入予定なしの場合は「×」を記載してください。)

設備等の種類	導入等の状況	設備等の種類	導入等の状況
電気自動車等への充電設備	×	エネルギー管理システム (FEMS、BEMS等)	○
電気自動車等から建物等への給電設備	×	その他 ()	
EV、PHV、FCV	×	その他 ()	

5 他の者の温室効果ガスの排出の抑制等に寄与する措置に係る事項

計 画	
第1年度	
第2年度	
第3年度	

6 その他、地球温暖化対策の推進への貢献に係る事項

計 画	<p>○社内で構築している環境マネジメントシステム(ISO14001認証)に基づき、環境負荷低減を目指す活動を継続。</p>
第1年度	
第2年度	
第3年度	

7 基準年度のエネルギー起源CO₂の排出の量等の実績 (1、2号該当者等)

(1) 事業者単位

ア エネルギー起源CO₂の排出量

(実)	3,459	t-CO ₂
(調)	-	

イ 原油換算エネルギー使用量

1,899	KL
-------	----

ウ 事業所の数

1

(2) 事業所等単位

ア 年間の原油換算エネルギー使用量が 1,500kl 以上の事業所

事業所の名称	事業所の所在地	エネルギー起源CO ₂ の排出量
川崎工場	川崎市川崎区殿町3-26-1 ANA川崎ケーターリング棟	3,459 t-CO ₂
		t-CO ₂
		t-CO ₂
		t-CO ₂

イ 年間の原油換算エネルギー使用量が原油換算で 500kl 以上 1,500kl 未満の事業所

事業所の名称	事業所の所在地	エネルギー起源CO ₂ の排出量
		t-CO ₂
		t-CO ₂
		t-CO ₂
		t-CO ₂